

# モモ・スモモの新梢管理について

果樹技術普及センター

## 1 新梢管理の目的

- (1) 健全な樹冠拡大と骨格（主枝・亜主枝）づくり、樹形の乱れを防止する。
- (2) 冬季剪定での強剪定を避ける。
- (3) 樹冠内部まで光を当て、光合成能力を高めるとともに着色向上を図る。
- (4) 同化養分の浪費を防ぎ、果実肥大を促すとともに生理落果などを軽減する。
- (5) モモハモグリガなどの防除薬剤のかけムラをなくし、防除効果を高める。

## 2 幼木・若木の新梢管理

- (1) 樹の中心部（樹冠内部）が過繁茂になりやすいため、樹冠内部（主幹の陽光面）を中心に新梢（徒長枝）の剪除、20cm程度残しての摘心やねん枝を行う。
- (2) 主枝延長枝に競合する新梢のねん枝や剪除を行うが、主枝先端が負けないよう勢力バランスを（新梢量を減らしすぎないように）考慮した新梢管理を行う。
- (3) 各主枝や亜主枝間の勢力バランス（新梢量）を考慮して新梢管理を行う。

## 3 成木～老木の新梢管理（着色期の管理を含む）

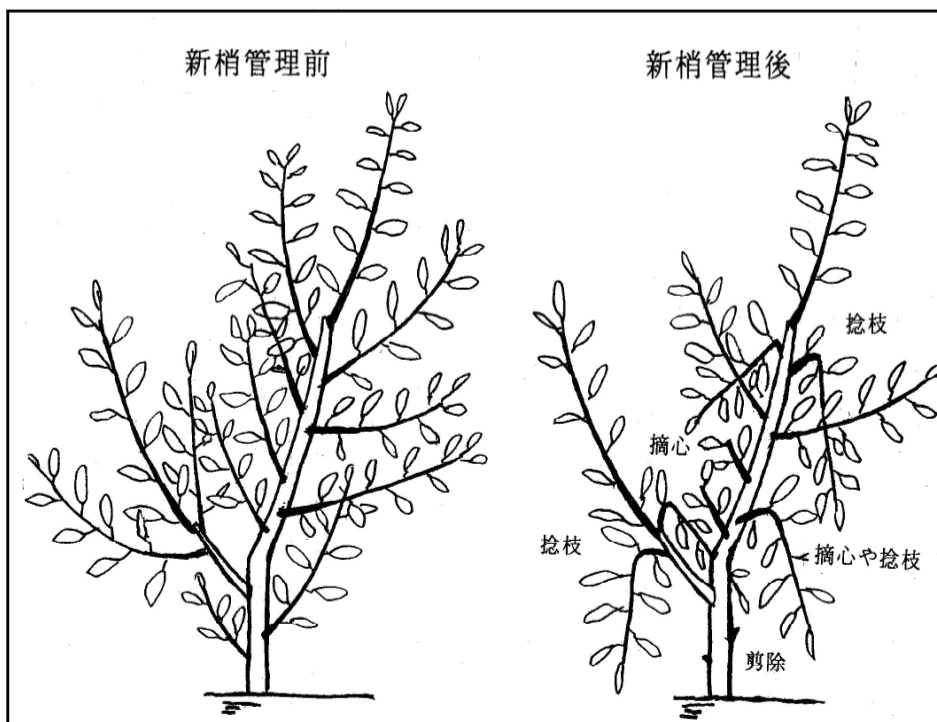
- (1) 効率的な果実生産や着色向上のため、受光体勢改善に向け、摘心などの新梢管理を行う。
- (2) 樹冠内を明るくするため、下垂した枝などへ支柱を行う。
- (3) 主幹部の日焼け防止対策として、20cm程度残して摘心やねん枝を行う。
- (4) 側枝や主枝先端などの更新用の新梢を計画的に残しておく。

### <モモ早生種（着色期）>

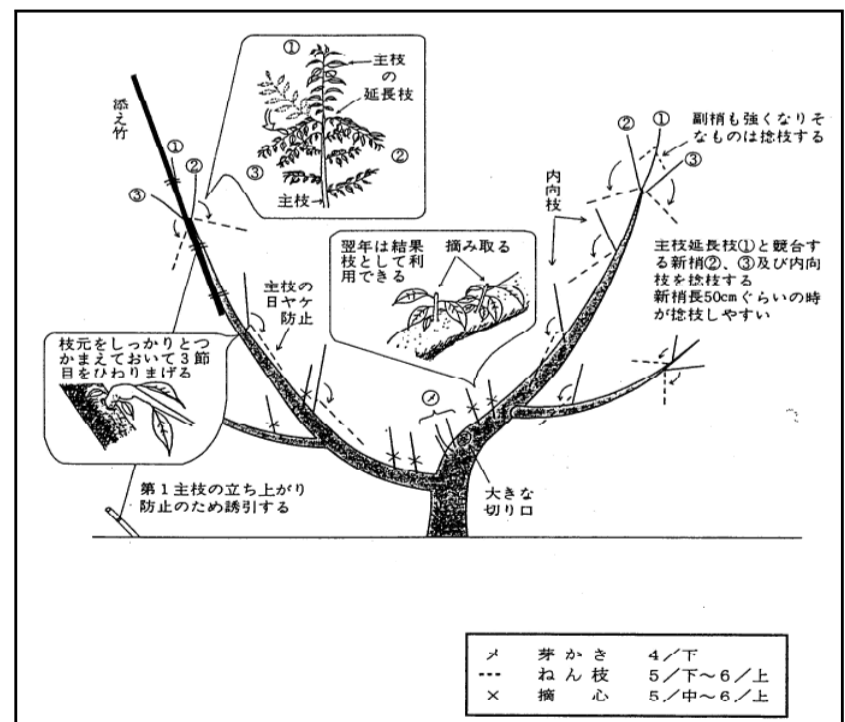
着色管理と併せて、徒長枝の剪除や摘心を中心とした新梢管理を行う。樹冠下の明るさの目安は、太陽光線が20%前後透過するくらい。

### <モモ中晩生種>

極端な新梢管理は避け、数回に分けて行う。この時期は、樹冠内部（主幹の陽光面）を中心に新梢（徒長枝）の剪除、摘心（20cm程度）やねん枝を行い、除袋時や着色期に再度、暗い部分や徒長枝の剪除や摘心を中心とした新梢管理を行う。



幼木の新梢管理モデル



若木～成木の新梢管理モデル





若木の新梢管理前



新梢管理後

※ 樹冠内部の徒長枝を中心とした新梢の剪除と摘心



新梢先端の新梢管理（先端と競合する新梢の剪除やねん枝）



※ 先端の勢いを維持するために、新梢数を減らしすぎないように注意する。



※ 主幹部の日焼け防止対策のためのねん枝と摘心（20cm程度残す）





※ 幼木・若木の基部からの徒長枝の剪除



新梢管理前



新梢管理後

※ 成木での新梢の剪除と摘心による明るさの確保